

「バイオマス資源循環利用診断モデルを用いた畑作酪農地帯における窒素循環の評価に関する研究」で平成18年度農業土木学会北海道支部賞を受賞しました

水利基盤チーム

平成18年10月25日に開催された第55回農業土木学会北海道支部研究発表会において、当研究所の秀島寒地農業基盤研究グループ長、水利基盤チーム大深総括主任研究員と財団法人北海道農業近代化技術研究センターの南部雄二氏、高木優次氏からなる研究グループが「バイオマス資源循環利用診断モデルを用いた畑作酪農地帯における窒素循環の評価に関する研究」で平成18年度農業土木学会北海道支部賞を受賞しました。

この研究は、北海道の東部に位置し畑作と畜産経営が混在する農村地域を検討対象として、それらの地域で発生する有機性資源の発生や循環利用の実態把握と改善策について、窒素に着目したフロー図を用いて検討したものです。

選考委員会による受賞理由は次のとおりです。

「近年、バイオマスの有効利用による循環型社会の構築が求められている。特に、農業地域では、分散する有機性資源の活用・未利用資源の有効利用等による循環保全型農業の推進と環境負荷の軽減が重要となっている。本研究は、2つの農村地域で発生する有機性資源の物質量をもとに、それらに含まれる窒素量を推定し、実態把握と改善策を検討したものである。実際

に循環系を構成していくには多くの課題があるが、耕畜連携、産業間の連携などによる資源循環型社会の構築に役立つものであることを評価する。」

この研究が、北海道内の農村地域における今後の有機性資源の健全な循環利用の実現の一助となることが期待されます。

(文責：中村 和正)

